

CASE 3 建設資材卸売業

商圏拡大

川上進出

環境対応



株式会社片岡屋
(沼津市)

施工業者の要望を反映し、使いやすい独自製品を投入
環境配慮型製品の拡充で、建設現場の環境対策をサポート

1937年に創業した建設関連専門商社の株式会社片岡屋。資材・機材販売から特殊工法の設計・施工まで手掛けており、一般住宅から道路、ビル工事などさまざまな建設現場で事業を展開する。

同社の主力部門の1つが橋梁機材部である。新東名高速道路の建設当時、全国の橋梁建設業者が県内の建設現場に集結していたが、橋梁製品を専門に取り扱う卸売業者は全国に数社しかなく、商機が広がっていた。

そこで、同社は新東名の建設現場で、多くの建設業者との取引関係をスタート。その後、新東名の建設工事終了後も、北海道から沖縄まで全国各地で施工される橋梁工事で声がかかるようになり、2024年の同社売上高全体の約4割を稼ぎ出すまでに成長している。

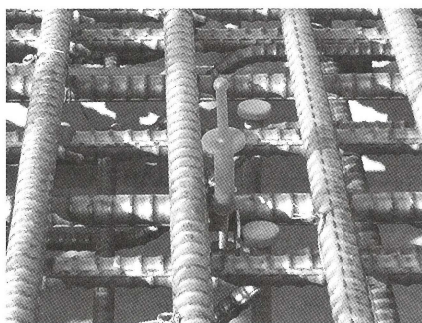
さらに、橋梁工事の現場において、顧客である専門業者の要望を具体的に聴き出すことで、自社製品開発に反映させている。たとえば、独自製品である『レベルポイントミニ』（写真3）は、橋梁床版のコンクリート打設において、天端（建物や部材の上面）レベルを無溶接で表示製品である。従来は、段取り筋への表示用鉄筋を溶接で固定していたが、専用金具を使ったネジ締付固定に工法を変更。熟練工の溶接技術に頼ることなく、作業員が安定して固定・調整できるようになった。また、表示具の素材も鉄筋からゴムに切り替えたこ

とで、作業員の安全性向上にも寄与。この製品は、国土交通省が公共工事などで活用されることを目的に、企業が開発した新技術をデータベース化した「NETIS」にも登録されており、施工業者からも高い評価を得ている。

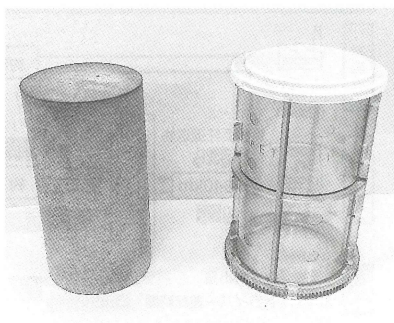
このほかにも、建設現場で外国人労働者などが増えている実態を踏まえ、「誰でもわかりやすく、使いやすいをコンセプト」（橋梁機材部 統括部長 川西潤二氏）に、鉄筋端部用の安全保護用品や、コンクリート型枠工事に用いる『ユニットコン』、『スリムコン』などの独自製品を投入。それらは会社全体の売上高の2割程度を占めており、他社との差別化を図る上で重要な役割を果たしている。

一方、建設現場での脱炭素化や環境意識の高まりを背景に、環境に配慮した製品の取扱いも強化している。従前よりグリーン購入に適した製品の販売を手掛けてきたが、「環境に配慮した自社製品の提供を通じて、建設現場の環境対策やイメージアップにさらに貢献したい」（代表取締役社長 秋元利之氏）との考えから、2024年から取組みを強化。その1つとして、コンクリート強度試験用の供試体枠で、従前はABS樹脂だった素材をペットボトルのリサイクル材に切り替えた『RE-PETモールド』（写真4）を売り出し、25年は4万個以上の販売を見込む。

同社は主力事業である建築関連資材の販売に加えて、建設工事、建設機械の販売やレンタル、そしてアフターメンテナンスそれぞれで需要を深掘りし、今後のさらなる成長を模索する。そして、「唯一無二の建設関連総合商社」（秋元社長）を目標に、業界で確固たるポジションを築こうと意気込みをみせる。



▲写真3 「レベルポイントミニ」(株式会社片岡屋)



▲写真4 「RE-PETモールド」(株式会社片岡屋)